

大／阪／の／建／築／まちあるき——「やお・かしわら」

てらだけじゅうたく 寺田家住宅（登録文化財）



主屋（南より）



主屋（北より）



土蔵・茶室



離れ屋

所在地： 柏原市今町 2-1-14
最寄駅： JR 大和路線「柏原」駅
北へ約 300 m
見学： 未公開
TEL： 柏原市教育委員会文化財係
072-976-3430

寺田家は宝永元年（1704年）の大和川付替え以前に、現在の藤井寺市北条町より柏原市今町に移住し、江戸時代は「北条屋」の屋号で、庄屋兼油かす問屋や柏原船の船主を営んでいた。

敷地は東西に長く、この地域では一番大きな屋敷であろう。西側は旧奈良街道に面し、東側には道路（路地）とJR大和路線が通っている。敷地中央付近を水路が南北に貫き、その東側が一段高くなっている。これは旧大和川の左岸堤防のすそのに当たり、移住当初はこの水路までが敷地で、その後、大和川の付替えによって出来た新田を購入し、現在の敷地になったと思われる。

建物の配置は西側の旧奈良街道に面して「主屋」が建ち、敷地中央を東西方向に敷かれた石畳により、一段高い部分にある「離れ屋」と繋がる。石畳の北側には土蔵、茶室が並び、南側には長屋門、土蔵が並んでいる。

「主屋」は桁行九間、梁行六間、つし二階建てで切妻造りの本瓦葺き、建築年代は、『河内の郷土文化』によると、明和元年（1764年）とある。「離れ屋」は桁行七間梁行三間半、それにT形に続く増築部が桁行六間半、梁行三間の切妻造りで棧瓦葺き、建築年代は不明であるが、「主屋」と同年代であると思われる。

この「離れ屋」は、明治23年（1890年）4月に明治天皇が大阪・奈良を行幸した際、皇后一行が「御昼所」の本陣とした建物で寺田家の敷地に近接して仮の乗降場が設けられ、直接鉄道を利用して入退場された事が知られている。（辻野忠彦）